

病虫害発生予察特殊報 第 1 号

チュウゴクアミガサハゴロモの発生について

佐賀県

1. 病虫害名：チュウゴクアミガサハゴロモ

Ricania shantungensis (Chou & Lu, 1977)

2. 発生作物：カンキツ、チャ

3. 発生の経過と概要

令和 8 年 6 月に、県内の一部のカンキツ園及び茶園で、在来のアミガサハゴロモ *Pochazia albomaculata* (Uhler, 1896) (図 1) よりやや大きく、翅の色が茶褐色～鉄錆色の成虫 (図 2) 及びその幼虫 (図 4) が確認された。カンキツ、チャ等に寄生していた成虫を農林水産省門司植物防疫所に同定を依頼した結果、チュウゴクアミガサハゴロモであることが判明した。

4. 国内の発生状況

本種は中国原産で、国外では韓国、フランス、イタリア、オランダなどへの侵入が確認されている。国内では、平成 29 年に大阪府で発生が確認され、現在までに 30 府県から特殊報が発表されている。

5. 形態

成虫の体長は 11～15mm 程度、前翅長は 10～13.5mm 程度で、前翅は茶褐色～鉄錆色のろう物質の粉をまとい、前翅前縁中央部には三角形の白斑がある (図 2)。卵は樹木などの枝に 1 卵ずつ 2 列になるように産み付けられ、産卵部位は白いう状物質で覆われている (図 3)。幼虫は白色で、腹部から白色糸状のろう物質の毛束をまとっている (図 4)。

6. 生態及び被害

- 1) 広食性で、果樹ではカンキツ、カキ、キウイフルーツ、モモ、リンゴ、クリ、ブルーベリー等の果樹類、チャ、花木類をはじめ多くの樹木等に寄生する。成虫、幼虫とも新梢を吸汁し、寄主の枝に産卵する。
- 2) 国内における年間発生世代数などの生態については不明な点が多い。
- 3) 成虫、幼虫の排泄物にカビが生え、すす病が発生する。成虫は樹皮を剥いで細い枝に産卵するため、産卵された部分から先が枯れることがある。

7. 防除対策

- 1) 令和8年8月7日時点で本種に対して登録された農薬はない。
- 2) 卵が産み付けられた枝を除去して園外に持ち出し埋却するなど適正に処分するとともに、成虫及び幼虫を捕殺する。

【引用文献】

1. 植物防疫所. 2026. チュウゴクアミガサハゴロモの解説. 病害虫情報140-③.



図1 在来のアミガサハゴロモの成虫



図2 チュウゴクアミガサハゴロモの成虫



図3 チュウゴクアミガサハゴロモの産卵部位（カンキツ類）



図4 チュウゴクアミガサハゴロモの幼虫

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

病害虫総合防除計画掲載アドレス

<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003101844/index.html>

防除セ二次元コード*



防除計画二次元コード*

